

鉄道についての共感覚

岩崎 純一

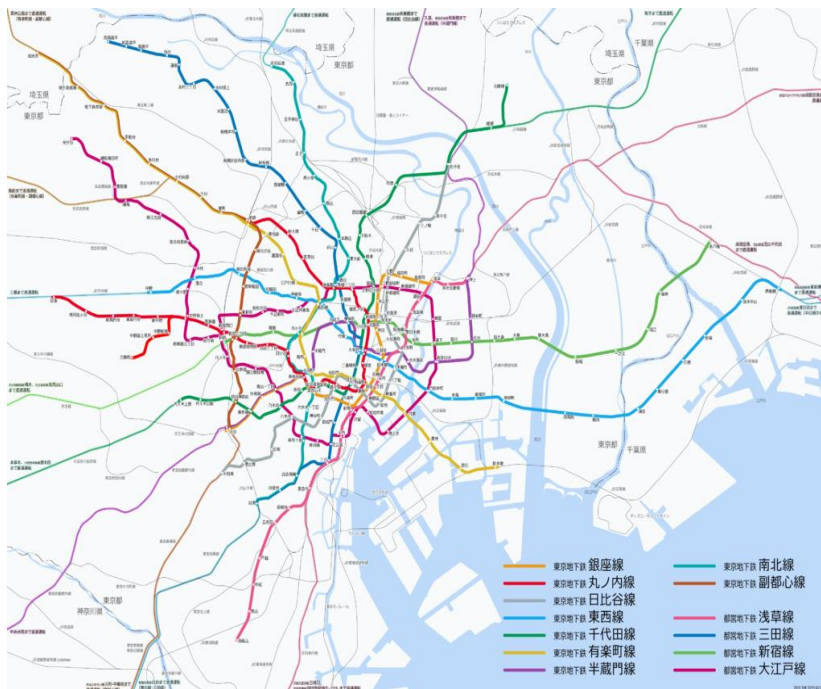
2013年8月20日作成

掲載サイト:「岩崎純一のウェブサイト」

<http://iwasakiunichi.net/>

目次

1. 解説と共感覚のポイント
2. 東京メトロおよび都営地下鉄の各路線のラインカラーと私の共感覚色との比較表
3. 東京メトロ丸ノ内線の駅名についての共感覚色



【画像引用元】

日本の鉄道ラインカラー一覧

東京メトロ丸ノ内線

Photos by Hisagi and Chihayasassas

1. 解説と共感覚のポイント

私は、鉄道(特に東京の鉄道)の車両のデザインや路線(路線図)、駅名についても共感覚を持っています。

ただし、同じ「乗り物」でも、エクステリア・エンジン音・規格・歴代モデルなどに対して微細かつ広範囲な共感覚やこだわりを持っている自動車ほどではありません。(別掲の自動車の共感覚もご参照。)

自動車についての共感覚の場合、ほとんどが幼少期から二十歳頃までに自動車カタログを見たり外で実車を見たりしているうちに身についた強固なものである一方、鉄道についての共感覚は、多くが19歳で岡山から上京して以降のおよそ十年間に、鉄道・駅を利用しているうちに身についたものです。地下鉄サリン事件発生の際は、まだ中学生でしたので、東京の路線図はあまり知りませんでした。

従って、自動車ほどデザイン・規格などにこだわりはなく、鉄道・駅の利用の際も共感覚記憶に引きずられて迷うようなことはありませんし、各社・各路線のコーポレートカラー・ラインカラーに合わせてごく普通に行動しています。(基本的に私は、駅や道で迷わない人の典型と言えそうですし、周囲の知人からもそう言われます。)

全てを紹介することは困難であるため、ここでは、東京メトロおよび都営地下鉄、そしてその中から千代田線を例にとり、共感覚色を紹介します。

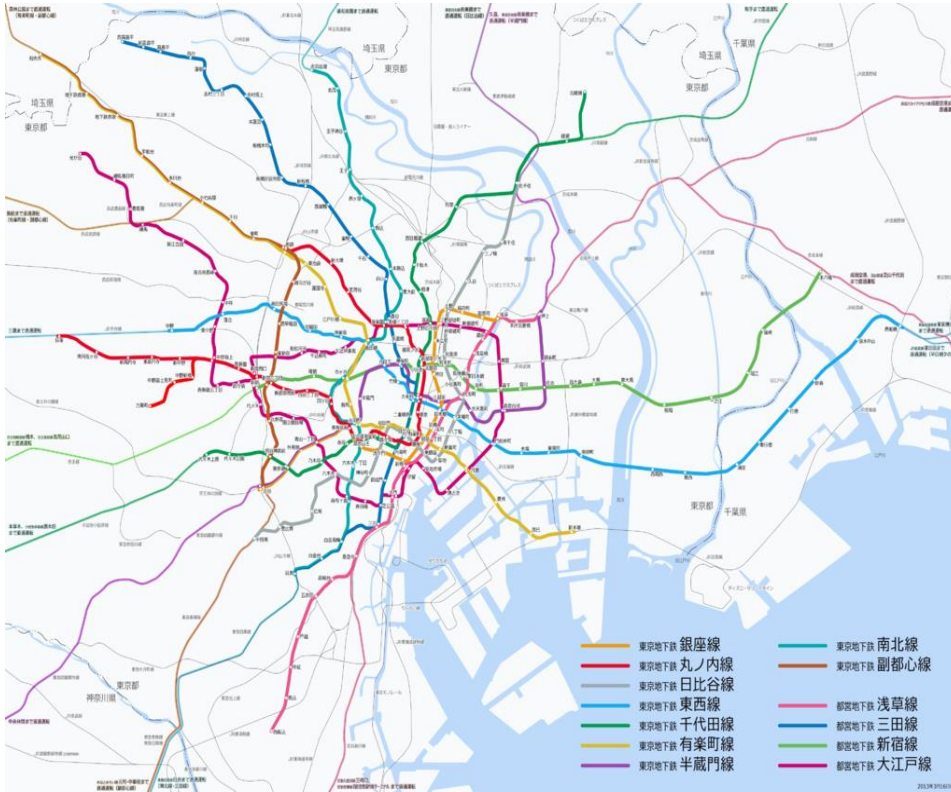
ちなみに、自動車の共感覚の解説同様、最後に余談を書きますが、この中で、個人的に乗っていて最も面白い路線は、丸ノ内線だと感じています。地上に出たり地下に入ったり、神田川の水面ぎりぎりを渡ったりと、我々人間の一人一人の人生に最も近い走り方をしている気がします。標準軌独特の安定感のある乗り心地も好きです。その次が、銀座線や東西線や三田線でしょうか。都内にお住まいでない方には分かりにくくて失礼しました。

※ 次ページ以降のポイント

○鉄道の車両のデザイン、路線(路線図)、駅名など、それぞれに共感覚色を知覚しているが、ここでは、車両(~系)ごとではなく、路線および駅名についての共感覚色を掲載するものとする。

○路線についての共感覚と路線図についての共感覚色も、厳密には異なっている。路線についての共感覚色とは、例えば「青色の路線に乗り、赤色の路線に乗り換える」と言うときの色であり、路線図についての共感覚色とは、地図上・衛星画像上で線路の敷設経路を目視したときに、その直線・曲線や他路線との交差の具合によって知覚される色である。しかし、両者は大きく異なっておらず、路線の共感覚色そのものが路線図に影響されているとも考えられるため、ここではまとめて路線(路線図)の共感覚色としている。

2. 東京メトロおよび都営地下鉄の各路線のラインカラーと私の共感覚色との比較表



路線番号	路線	記号	ラインカラー	私の共感覚色
東京地下鉄(東京メトロ)				
3号線	銀座線	G	オレンジ	
4号線	丸ノ内線	M,m	レッド	
2号線	日比谷線	H	シルバー	
5号線	東西線	T	スカイ	
9号線	千代田線	C	グリーン	
8号線	有楽町線	Y	ゴールド	
11号線	半蔵門線	Z	パープル	
7号線	南北線	N	エメラルド	
13号線	副都心線	F	ブラウン	
東京都交通局(都営地下鉄)				
1号線	浅草線	A	ローズ	
6号線	三田線	I	ブルー	
10号線	新宿線	S	リーフ	
12号線	大江戸線	E	マゼンタ	

